

尼崎市立わかば西小学校 平成29年度 学校評価

学校関係者評価委員会について

委員：学校評議員3名
PTA 会長

学校：校長、教頭

- 1 本年度の重点取組 1 校区内に交通量の多い道路がたくさんあるため、登下校の安全と、仲良く楽しく学校生活を送れる事を、最優先重点取り組み課題とする。
2 児童・家庭と強い信頼関係を築き、児童が主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を伸ばしていく教育の充実に努める。
- 2 教育目標・めざす子ども像 わかるまで自ら学習に取り組む子・場を清め協力して活動する子・にこやかに挨拶と返事が出来る子・しっかりと食べ進んで運動に親しむ子
- 3 本年度の研究テーマ 「自分の思いや考えを言葉にし、相手に伝わるように表現する子どもの育成をめざして」～みんながつながるコミュニケーション能力を育てる～

自己評価の基準	4：十分達成できた	3：達成できた	2：取り組んでいるが、成果は十分でない	1：取組が不十分である
関係者評価の基準	4：よく取り組んでおり、成果が大きい	3：熱心に取り組んでおり、今後が期待できる	2：取り組んでいるが、成果は十分でない	1：取組が不十分である

4 学校評価（自己評価及び学校関係者評価）

(1) 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する	学力向上の推進 ・自主学習ノートに取り組みを継続し、家庭での学習習慣の定着、改善が見られた。 ・一人一授業、指導案を作成、授業公開。→学級経営能力や指導力の向上に繋がった。 ・少人数授業によるきめ細かな指導で、算数の理解度が向上した。	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に学習に取り組むような工夫が必要→単元全体を見通した計画たて、計画的、段階的に指導する。 サマースクールを実施し、約8割の児童が参加した。復習の充実には役立ったが、今後は各個人にあったレベルアップをどうするかが課題→個別の程度に応じた問題にどのように取り組ませるか、今後も検討していく。 特別支援教育の共通理解の会を、年度当初に実施し、児童への啓発も適切な時期に実施を計画する。 	児童が自主的に学習に取り組めるよう、いろいろ工夫して指導されており、その成果も見られる。引き続き、学力向上の取組に期待する。特別支援教育について、一人一人のニーズにあった合理的配慮や適切な支援がされている。
特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する	特別支援教育の推進 ・心の教育特別支援員による支援→一人一人のニーズに応じた細かな支援ができています。 ・児童理解研修の定期的な開催→生徒指導や個々の支援・合理的配慮に役立った。 ・小中合同研修会の実施→大庄中学校校区の学習の目安作成			

(2) 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部会→配慮を要する児童に関する情報を共有し、組織として指導に取り組んできた。 県の道徳教育副読本の計画的活用→学年段階に応じた指導の徹底が出来た。教科としての道徳のモデル授業を実施 全校なかよし集会→「仲良く・楽しく」をめあてに、行事を設け、よりよい縦割りの人間関係を築く。 「人権・命」に関する講演会・授業の実施→人権意識や道徳心の向上を図り、豊かな人間性を育むことができた。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 児童の家庭等にある、個々の事情を見逃す事があるのではないかと心配している。→虐待事案のケアや必要に応じて、「全職員で全児童を見守る」という体制を今後も徹底し、未然にトラブル等を少なく出来るよう、職員の連携を密にし、組織として対応・指導していく。 清掃活動等の指導が徹底できていない事があった→一人一人が責任を果たし、みんなの役に立つ、働く喜びを味わわせる指導計画を見直す。 キャリア教育の充実を図る。→学年ごとにキャリアノートの活用や、地域人材の活用を推進していく。 	統合2年になり、児童は仲良く、友だちも増えているようだ。今後も、学校や家庭以外でも、元気なあいさつや、人に迷惑をかけないマナーについて、家庭と連携して指導してほしい。
基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る				
キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する				

(3) 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 残食が少なく、しっかり給食を食べている。栄養教諭による給食時の放送や、食育の授業で、児童の食に対する意識が高くなった。 ポスターや放送等で手洗い、うがい等の生活習慣づけを児童に徹底し、インフルエンザ等による学級閉鎖減った。 チャレンジなわとびに挑戦する。→継続して、全員で体力・持久力向上に取り組めた。 給食試食会を行う。→食育の理解と関心を高める。 	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 体力の向上を目指す。→年間を通して、外遊び長縄跳び等、友だちと仲良く楽しくできそうなものに、目標を持って取り組むことで、楽しみながら、体力も向上させることをねらう。 栄養教諭を中心として、食育の理解と関心を高めるため、引き続き給食週間の取り組みや、委員会活動と組み合わせさせて充実させていく。 外で児童が元気に活動しようとする手立てが必要である→児童会や委員会等で、行事を企画して全校で取り組む。 	外で遊ぶ児童をあまり見かけないので、体力や持久力が育っていくのかやや心配である。食育が適切に行われていることにより、偏食や残食が少ないのだと思う。
体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る				

(4) 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る	<p>登下校の安全指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 統合で校区が広くなり大きな課題である、登下校時の安全指導の徹底について、地域・PTAの協力や、職員の立ち当番の実施→児童の安全を守り、指導の徹底を継続する。 避難訓練、年3回の実施→「自分の身は自分で守る」防災に対する意識を高め、対処法の習得を徹底する。 不審者対応訓練の実施→警察の協力で、不審者侵入を想定した、職員の不審者対応についての意識・技能を高め、対処法の習得を徹底する。 災害対応マニュアル、不審者対応マニュアルの作成→緊急時の対応について、職員の共通理解を図る。市の様式の改訂に取り組む。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 校舎移転に伴い、通学経路が大きく変わる→引き続き、学校・地域が連携して登下校の安全確保に取り組む。 下校後の自転車事故が起きている。→児童の意識を高めるため、自転車安全教室の実施や警察のDVDを全校で定期的に見て学習する。 地域・PTAの協力や、職員の危機意識を高めていく。→引き続き、児童の安全を守り、安全に対する指導を継続し「自分の身は自分で守る」指導の徹底していく。 地域と連携した地震・津波避難訓練の充実→日頃から、児童の防災に対する意識を高め、下校後や一人の時の対処法を習得させる。 	新校舎に移転しても、学校、PTA、地域のそれぞれが更に連携し、児童の安全について見守っていききたい。自転車の事故が減ってほっとしている。自転車の事故は、大人が乗り方の手本を示すことが大切だと思う。
防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る				

(5) 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る	<p>開かれた学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業参観・オープンスクール、新しく児童会まつり等を実施できた。 地域人材の活用→地域の方々による図書ボランティアへの参加。本に興味をもつ児童が増えつつある。 <p>教職員の自己研修</p> <ul style="list-style-type: none"> サマースクール等の実施→教師の専門性を生かし、資質向上を図る。児童の学習に対する関心・意欲が向上した。 校内外の各種研修・研究会に積極的に参加した。自己研鑽に努め、一人一授業の実施で、児童理解力、実践的指導力の向上を図った。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 新校舎へ移転となる→地域や卒業生に、新校舎を見て頂けるよう、土曜に日を設定し広く公開する。 児童が主体的に学習に取り組む授業の充実→講師を招聘し、授業研究により全校で指導の共通理解を深める。 学校行事・授業参観、児童会まつり等の充実→地域に学校の情報を発信し、地域の方々が学校に足を運んでいただけ易いよう、環境づくりを推進していく。 新校舎になっても、引き続き地域とつながり、信頼関係を築いていく。→学校の取り組み等を積極的に、発信していく。 	新校舎に移転になるが、引き続き地域の3つの連携で、組織的に見守り活動ができるように体制を整えているところである。地域の方々に学校のこともっと知ってもらい、協力してもらうことが大切である。
地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る				

(6) 教育目標

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> きめ細かな指導により、算数の学習内容を、十分身につけることができた。 わかば西タイムを充実させ、音読・漢字・言語等、基礎基本の定着を図る。読書力向上担当と連携し、朝読書等、読書活動を活性化できた。 常に体を動かす楽しさや喜びを経験させ、休憩時間の外遊びや体育、スポーツ活動の充実を図れた。(長縄跳び等) アクティブラーニングの視点に重点をおき、児童自ら、問題解決に取り組む授業を目指し、研修に取り組んだ。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 学習の習得に個人差が見られる。→学力定着支援事業の人材をうまく活用し、意欲をもって学習に取り組む児童を増やしていく。(放課後学習指導等の充実) 学力テストの結果を分析し、国語課題に取り組んでいく→実にテストの実施、授業と家庭学習をつなぐ取り組みを工夫充実する。 あいさつ、清掃についても達成に個人差がある。→組織として目当てが達成できるよう継続して全校で取り組んでいく。 	よく取り組まれている。
教育目標の具現化と指導の充実				

(7) 研究テーマ

評価内容	取組とその成果	自己評価	課題と改善策	学校関係者評価委員会での意見
研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 国語科を研究の柱とし、研究推進委員会と全体研究会で取り組んでいくことができた。わかば西の児童の学力向上に寄与する取り組みを、全職員で共通理解を高めた。 系統立った学習活動・指導を展開できる骨組みを、学年ごとに構築を検討していく。 実践的な演習等、研修会の実施→講師を招聘し、授業を通して実践的なアクティブラーニングに関する全体研究会を2回実施した。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究では、わかば西小の児童に一番フィットする、アクティブラーニングの視点に重点を置く。児童自らが学習に取り組む授業を目指し、授業展開の工夫「わかる授業」「生きる力のつく授業」「家庭学習との繋がり」等の充実に努めていく。 若い教員が増え、授業を通して実践的な研修・演習を実施する。→講師を招聘し、授業・演習を中心とした、実践的なアクティブラーニングに関する研修を設定する。来年度も、授業研究と合わせて実施する。 	来年度の道徳や英語の実施に向けての準備等、よく取り組まれている。
研究テーマの具現化と指導の充実				

※ その他の学校関係者評価 (A: 優れている B: 適切である C: おおむね適切である D: 要改善)

アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B